

透析におけるチーム医療 ～治療効果改善への取り組み～

衆和会 長崎腎クリニック、長崎腎病院

○ 池田康平, 井上隆光, 田中 健, 矢野利幸, 高木伴幸, 橋口 純一郎,
原田孝司, 船越 哲

【背景】

日本透析医学会から発行される「わが国の慢性透析療法の現状」と当院の透析療法の現状を、2010年の時点で比較したところ、多くの因子で当院は全国の平均値を下回る事が判明した。

【目的】

今回我々は、臨床工学技士（以下、CET）が透析医療チームの一員として治療効果を向上するため行っている取り組みを報告する。

【対象・方法】

当院外来維持透析患者 58 名について、患者血清因子データの解析を CET が施行し管理を行った。

【結果】

データ不良対象者を抽出することで患者個々の情報の確認ができ、それをもとにカンファレンスを行うことで患者指導や使用薬剤、透析条件の見直しをすることが容易になった。

【考案】

透析治療効果を改善するためには、CET も含めた医療チーム全体で取り組み、知識の向上や患者との信頼関係の構築が重要と考える。